

## 2009 年度第 5 回日本語教育研修会：報告

今回は、八田直美先生(国際交流基金国際日本語センター専任講師)を講師にお招きし、「教材の役割・教師の役割を考える－教材分析から教材作成へ－」をテーマに研修会を行いました。

日 時：[高雄] 2009 年 12 月 12 日(土) 13：30～17：30

[台北] 2009 年 12 月 13 日(日) 13：30～17：30

参加者：台湾の日本語教育関係者 [高雄] 50 名、[台北] 46 名

まず初めに、「いい教材・理想の教材」とはどんな教材かについてグループで話し合うことから研修会が始まり、教材分析課題へと進みました。

教材分析では、学習者の学びや学習を支援する教育の流れを確認しながら、教材全体の分析から課の構造分析、課の練習分析へと 3 つの課題がこなされていきました。分析対象教材には『みんなの日本語 初級』が主に使用されましたが、参加者が持参した『初級日本語能力本位教材』、『e 世代日本語』、『学ぼう日本語』、『文化初級日本語』なども用いられました。いずれもコミュニケーション能力の養成という観点からは『みんなの日本語』とほぼ同様の問題があることをはじめ、参加者全体で多くの問題意識が共有されました。

後半は、八田先生の自作教材を例に、再度、教材の構造(教育の流れ)と練習の内容(学習過程への配慮)に関する分析活動などが行われ、教材の役割と教師の役割について話し合われました。素材としての日本語と、学習を支援する教育の流れ、学習過程に配慮した練習の提供が教材の役割であるのに対し、学習者に合った教育の設計と教材の選択が教師の役割であり、この教材選択には、教材が提供しているものと提供していないものの判断(教材分析)、そして、必要だが提供されていないものを提供(教材作成)して教材と学習者の間を埋める作業などが含まれていることが確認されました。

今回は、教材分析を通して教材と教師の役割を考え、認識を新たにする、非常に有意義な研修会となり、「教材分析の具体的な内容を学ぶことができ、現在ある教材の生かし方、また自作する際のポイントなど、非常に参考になった」、「教材選択に役立つ内容で、学生の学習に役に立つ教材について改めて考え直す大きなきっかけになった」、「教科書の足りないところが目に見える形で提示されたのに感動した」、「これから教材を分析し、学生に適した教材を作って今後の授業に生かしたい」など、好意的な感想が多く寄せられました。

八田直美先生



研修会の様子

